

第72期 株主通信

第1四半期 (2018年4月1日~2018年6月30日)



Think Automation and beyond...

Top Message

株主の皆さまへ

当第1四半期の売上高は、設備投資需要や中国を中心とする生産設備の自動化ニーズの影響などから、国内外で主力の制御用操作スイッチなどHMIソリューション製品や、安全・防爆ソリューション製品、オートメーションソリューション製品などが伸長した結果、154億9千3百万円(前年同期比8.0%増)となりました。

営業利益は主力製品群の売上増加などにより、15億7千5百万円(前年同期比8.3%増)となりましたが、四半期純利益は為替差損益の影響などにより、14億4千3百万円(前年同期比20.7%減)となりました。

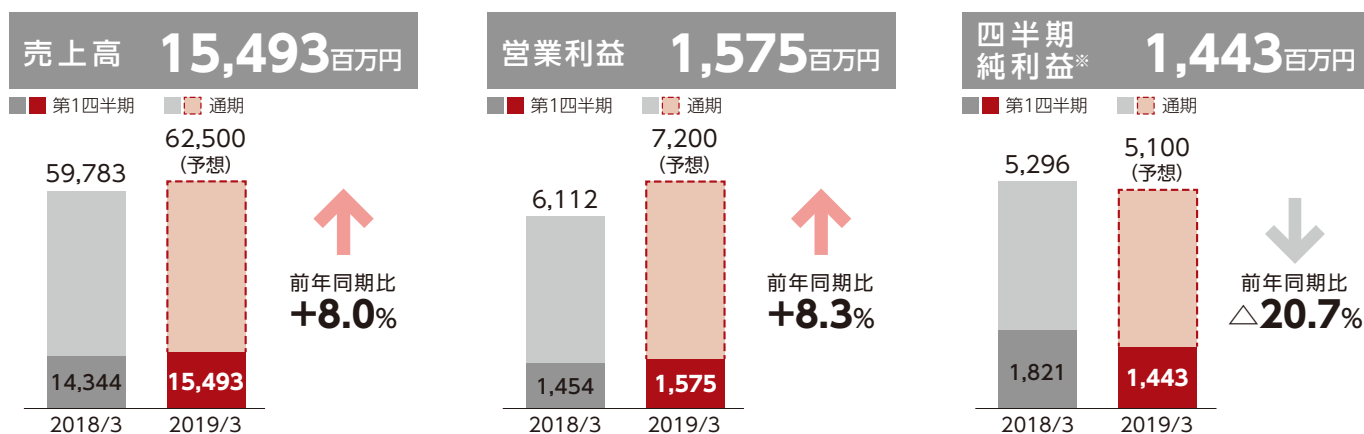
米中の貿易摩擦の影響など先行き不透明な部分もありますが、国内外の需要は引き続き好調に推移しております。通期計画の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長

船木俊之

財務ハイライト

四半期純利益は為替差損益の影響などにより減少しましたが、売上高、営業利益は伸長しました。



*親会社株主に帰属する四半期純利益

製品別売上高

HMIソリューション

- ・制御用操作スイッチ
- ・ジョイスティック
- ・表示灯



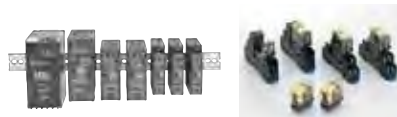
7,740百万円

前年同期比
+11.3%



盤内機器ソリューション

- ・スイッチング電源/制御用リレー/端子台
などの制御用盤内機器
- ・産業用LED照明



2,914百万円

前年同期比
+5.8%



オートメーションソリューション

- ・プログラマブルコントローラ
- ・プログラマブル表示器
- ・自動認識機器



1,999百万円

前年同期比
+15.5%



安全・防爆ソリューション

- ・安全関連機器
- ・防爆関連機器



1,594百万円

前年同期比
+7.0%



システム

- ・セキュリティシステム
- ・各種システム



788百万円

前年同期比
+7.6%



その他

- ・再生可能エネルギー事業
- ・次世代農業ソリューション
- ・協調安全ロボットシステム
- ・ウルトラファインバブル発生装置



456百万円

前年同期比
△33.2%



地域別売上高

日本

6,885百万円

前年同期比
+5.3%



米州

2,583百万円

前年同期比
+10.4%



EMEA (欧州、中東、アフリカ)

2,584百万円

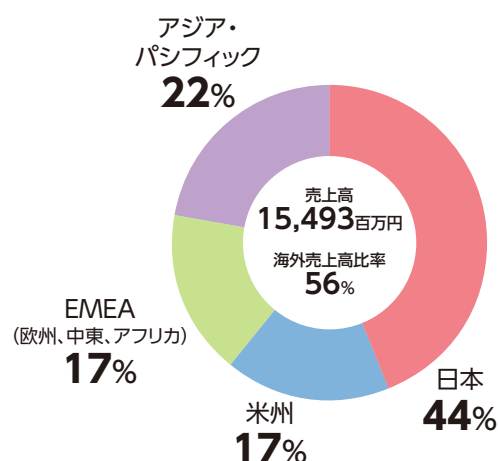
前年同期比
+5.0%



アジア・パシフィック

3,439百万円

前年同期比
+14.6%



業績ハイライト

日本においては、環境関連事業が減少したものの、主力製品である制御用操作スイッチなどのHMIソリューション製品や、安全・防爆ソリューション製品、自動認識機器などオートメーションソリューション製品が伸長しました。

海外においては、欧州など各地域でHMIソリューション製品や安全関連機器の売上が伸長したことに加え、米州ではプログラマブルコントローラなどオートメーションソリューション製品が堅調に推移しました。また、中国を中心とするアジア・パシフィックでは、制御用リレーなど盤内機器ソリューション製品が伸長しました。

物流業界の安全性向上と効率化の両立を可能にする 各種ソリューションを提案しています



人手不足の進展などにより、物流業界では自動化やロボットの導入が急速に進んでいます。IDECが強みを持つHMI (Human-Machine Interface) 製品や安全関連機器、オートメーションソリューション製品などを組み合わせることで、物流業界に最適なソリューションをご提供しています。

例えば、人やモノの接近を検知し機械を減速・停止させるセーフティレーザスキャナを、倉庫や工場内での搬送作業を行う無人搬送車に搭載することで、事故を未然に防ぐことができます。その他にも、扉に設置することで、メンテナンス時など危険エリアに人が立ち入り作業する際に機械を停止し、安全を確保する安全スイッチや、ハンズフリーでの作業を可能にするウェアラブルターミナルなど、IDECグループの技術を活用したソリューションで、安全性の向上と効率化を実現しています。

安全性を向上するソリューション



扉に設置し、扉が閉まっているときにだけ機械の稼働を可能にする安全スイッチ

機器を操作するコントロールボックス

人やモノの接近を検知するセーフティレーザスキャナ

効率化を実現するソリューション



ハンズフリーでの作業を可能にするウェアラブルターミナル

IDEC グループ企業紹介

東京センサのグループ化により、 安全・安心ソリューションの拡充・強化を進めていきます

2018年7月2日に、接触センサの国内主力メーカーである株式会社東京センサが、IDECグループとなりました。東京センサは、生産設備や公共交通機関、商業施設などの安全・安心対策で活用される各種製品の製造・販売を行っています。

生産設備やシャッターの挟み込み検知、水泳競技のタイム測定など幅広い用途に使用されているテープスイッチに加え、工場稼働する無人搬送車などに搭載し、衝突検知用として使用されるエッジスイッチやバンパースイッチ、マット状にセンサを配置し指定領域への立ち入りを検知するマットスイッチなどが主力製品です。

IDECが得意とするスイッチや安全関連機器に東京センサの製品が加わることで、安全+安心ソリューションが拡充することから、さらなる事業の強化に取り組んでいきます。

会社概要

会社名 株式会社東京センサ
設立 1983年8月
資本金 10百万円(2018年3月末現在)
社員数 31名(2018年6月末現在)
事業内容



株式会社東京センサ

テープスイッチをはじめとする、各種接触センサの製造・販売など



本社(東京都江東区)

主要製品



テープスイッチ



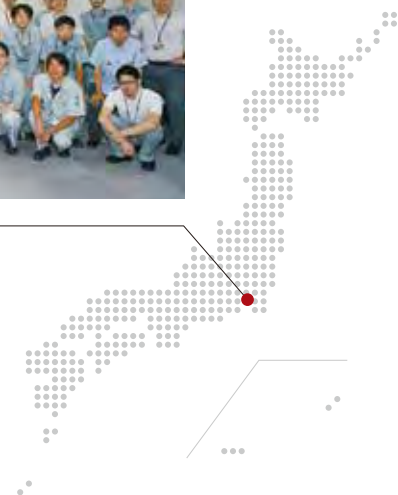
エッジスイッチ



バンパースイッチ



マットスイッチ



6月15日(金) IDEC本社にて第71期定時株主総会を開催しました。
 今回の株主総会の議案が全て承認可決されましたことから、6月15日をもって IDECは監査等委員会設置会社へと移行し、取締役10名中7名が社外取締役となりました。
 また、重要な業務の全部または一部を業務執行取締役に委任することで、グローバルカンパニーとしてスピーディーに意思決定できる体制となりました。



株主総会の様子

創業者 船木恒雄の創業の理念を受け継ぐ

2018年4月25日に、IDECの創業者であり名誉会長の船木恒雄が101歳をもって永眠いたしました。
 6月25日には、大阪のリーガロイヤルホテルでお別れの会を開催し、約700名の方にご参会いただきました。

History of IDEC

船木恒雄は終戦直後まだ焼け野原であった大阪の地で、1945年11月にIDECの前身である「和泉商会」を創業し、1947年に和泉電気株式会社を設立しました。1976年に代表取締役社長、1985年に代表取締役会長、2006年に名誉会長に就任し、高度成長期を経てバブル景気の崩壊、そして現在に至る激流の中で、常に「信念」と「情熱」を胸に抱き、飽くことなく挑戦を続けて生涯現役を貫きました。

船木恒雄が礎を築いたIDECは、創業以来「社会貢献を念頭においたものづくり」を経営理念の一つに掲げ、制御技術、安全技術を核とするさまざまな製品やサービスを社会に提供し、安全で持続可能な社会の実現を目指しております。

今後もIDECグループ一同、「信念と情熱をもって挑戦と創造をし続ける」という創業者の理念を受け継ぎ、より一層の発展と社会への貢献に邁進してまいります。



当時のロゴと社屋



創業当時の船木恒雄



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
配当金受領株主 確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	☎ 0120-782-031 (受付時間 9:00~17:00 土日祝日を除く)
公告の方法	電子公告により行います。 http://jp.idec.com/ja/aboutIDEC/ir/stockholder_info ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

●株主さまの住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。

CSRページをリニューアルしました



IDECグループのCSR活動の取り組みを知っていただくため、デザインを刷新いたしました。ぜひご覧ください。

<http://jp.idec.com/ja/csr>